

市立

2010年度

8 - 9 月号

(通巻 129号)

# いちかわ 自然博物館だより

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！



撮影：土居幸雄さん

いきもの  
写真館

ナガサキアゲハ  
市内では二〇〇二年に記録されて以降、  
急増した南方系のチョウです。クロアゲハ  
に似ますが、翅に尾状突起がありません。

- |     |  |     |  |
|-----|--|-----|--|
| P 1 | ● いきもの写真館<br>ナガサキアゲハ                               | P 5 | ● 街かど自然探訪<br>新浜 かつて堤だった道                 |
| P 2 | ● 長田谷津 いきもの暦<br>3 8月・9月の暦から<br>8月5日 オニヤンマの産卵<br>ほか |     | ● くすのきのあるバス通りから<br>初夏のいろいろな話題            |
| P 4 | ● 拡大花図鑑<br>その9 ジュズダマ<br>(つぼのなかで咲く花)                | P 6 | ● 自然博物館 スポットライト<br>7月の企画展より<br>でっかいヤゴ ほか |
|     |  | P 7 | ● わたしの観察ノート<br>5月～6月ごろの記録                |
|     |  | P 8 | ● 行事案内                                   |



## 長田谷津 いきもの暦

8月・9月の暦から



### ● 8月5日 オニヤンマの産卵

オニヤンマは、夏の長田谷津を代表する昆虫です。7月に続々と羽化した成虫が、まもなく谷津の空を埋め尽くすように飛び、やがて低く下りてきて流れに沿って行き来するようになります。産卵に適した場所に縄張りを張るオスのオニヤンマです。8月になるとメスも登場し、豪快なオニヤンマの「おつながり」が見られるようになります、やがて湧水の流れにしっぽ（腹端）をチョンチョン挿して産卵する姿が見られるようになります。成虫は、遅いもので10月ぐらいまで観察することができます。



### ● 8月17日 サシバ13羽が帆翔

サシバは、タカのなかまで渡り鳥です。春、南から渡ってきて国内の里山で子育てをし、秋、南へ帰っていきます。長田谷津では子育てはしていませんが、南へ帰る群れが立ち寄ることがあり、多いときには10羽を越すサシバが、谷津の上空をぐるぐると旋回して帆翔します。

田植えの頃に里山を訪れ、田んぼのヘビやトカゲを捕らえ、谷津の斜面林に巣を構えるサシバは、里山を代表する存在です。長田谷津が公園になる前は稲作がされていたから、また、訪れる人もなく静かだったので、そのころはサシバが繁殖していたかもしれません。



## ● 9月7日 見事なツユクサの群生

9月の声を聞くと、長田谷津の湿地はいろいろをぐんぐん増してきます。夏の間はミソハギのピンク色だけが目立ちましたが、秋の訪れとともにさまざまな野草が咲き出し、逆にミソハギが色あせて見えるようになります。ツユクサとツリフネソウは群生して咲くのでひとときわ映え、特にツユクサの青は目を引きまします。自然界では、意外に青は少ないからです。カワセミが人気なもの、あの青色が他に代えがたい美しさだからでしょう。ツユクサも同様です。



## ● 9月29日 ナガコガネグモの巣

秋が深まるにつれて、長田谷津ではクモの巣が目につくようになります。目立つのはジョロウグモで、斜面林の木の枝などを結んで大きなテント型の巣を張ります。下を見て歩くと気づきませんが、上を見上げるとでっかい巣がいくつもあります。雨上がりだと糸に水滴がついているので、なお目立ちます。

ナガコガネグモは、湿地の草の間に巣を張ります。ジョロウグモのような立体のテント型ではなく、平面のきれいな円い巣です。巣の中心には「隠れ帯」と呼ばれる白く目立つ糸の模様があります。



こちらの内容は、

20年分の自然観察の記録を使ってつくった暦(毎日のできごと)を掲載した  
ガイドブック「長田谷津いきもの暦」を参考に作成しました。

企画展会場でのみ販売(ホームページでは見られません) 500円

**企画展 長田谷津いきもの暦** 平成23年1月30日まで

会場 自然博物館(市川市動植物園内) 特別展示室

毎月展示を替えて、その月の見どころをパネル・標本・飼育などでご紹介いたします。

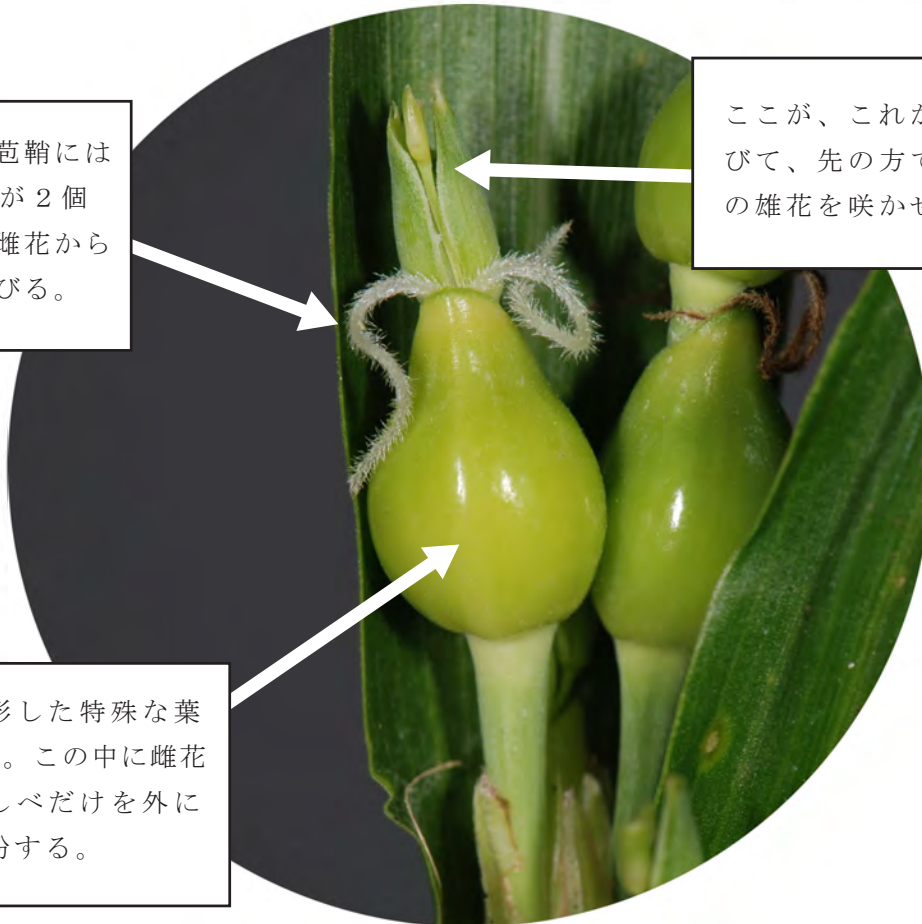
# 拡大花図鑑

その9

ジュズダマ

(つぼのなかで咲く花)

自然を活かした細工物に必ず登場するジュズダマ。なぜ糸を通す穴が都合よく開いているのか、その理由は、8月に咲く花を見ないと判明しません。あの穴は、「つぼ」の中で咲く雌花が雌しべを出す穴であり、雄花が伸びていく穴でもあります。硬くなった「つぼ」を割ってみると、中には丸い実があつて意外と柔らかいです。これなら蒔けばちゃんと発芽しそうです。



雌しべ。つぼ型の苞鞘には3個の雌花があるが2個は退化し、1つの雌花から2本の雌しべが伸びる。

ここが、これから長く伸びて、先の方でたくさんの雄花を咲かせる。

つぼ型に変形した特殊な葉（苞、苞鞘）。この中に雌花があり、雌しべだけを外に伸ばして受粉する。

右：雄花の集まり

(雄花序)

イネ科の花なので、花は地味で雌しべがぶら下がり、風で花粉を飛ばす。

左：熟した実の中身

いわゆる「芯」が2本見える。これを抜いて糸が通る空間を作る。





# 街かど自然探訪

おじゃまします!

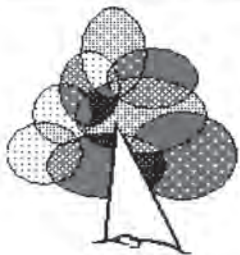
## 新浜・かつて堤だった道

市川の海岸線は、昭和30年代にはじまった埋立てによって、ずっと沖の方に移動していて、かつての位置はわからなくなっていました。下左の図でわかるように宮内庁の「新浜鴨場」は、もともとは海に面していました。下右図と見比べると「野鳥の楽園」との境が堤で、そ

こからは広大な干潟が沖まで見渡せたことでしょう。今でも、その名残りの道が残っていますが、すっかり海から離れた場所になってしまいました。



国土地理院発行2万5千分の1地形図  
鴨橋 昭和28年・平成11年発行  
浦安 平成17年発行



くすのきのあるバス通りから No.74

## 初夏のいろいろな話題

一年前、真間川の木株橋の付近に「カナダモ」らしきものがありました。その後、台風か、大雨で流されてしまいました。しばらくのぞかなかった間に「あれ、何もなかったはずなのに」とびっくりするほど、昨年よりもっとワサーと茂っています。護岸の矢板で段になって浅くなった部分にも生えています。その付近は3・4・18号線の工事で通り道が変更になったり、植栽がごっそりなくなったりします。その植栽に6月17日、お腹が水色の白いセキセイインコがいました。「市川で野生化しては困る」と思い保護しまし

た。娘と捕まえようとしていたら、通りがかりの男の方があつという間に捕まえてくれました。

ツマグロヒョウモンは一頃より数多くは見かけないのですが、相変わらずスマレに卵を生みつけ軸だけになり、幼虫は行方不明になりました。行徳駅前付近の行徳バイパス沿いの歩道に赤いカミキリがいました。道端のヨモギに避難させました。7月13日葛飾八幡でニイニイゼミが鳴き始めました。

(セキセイインコに心当たりがありましたらご連絡ください。) (M.M.)

## 7月の企画展より

### でっかいヤゴ

「でっかいヤゴ」としてオニヤンマの終齢幼虫を飼育展示しました。タイトルは、隣で飼育したシオカラトンボ類やアカトンボ類のヤゴを「小さなヤゴ」として、両者の比較を意図してつけました。水中の生きたヤゴを見ていただくことが展示の趣旨だったのですが、実際にはレンガにくっついた迫力満点の抜け殻の方が人気がありました。見やすかったからかもしれません。

羽化そのものは開館時刻前にはほぼ終わってしまうため、羽化した成虫は飼育ケースに入れて、その日の閉館まではあわせて展示するようにしました。



浅い飼育ケースに陸と水場（ごく浅い）を半分ずつ作り、陸にはレンガを縦に置いて羽化場所としました。飼育したヤゴは、ぜんぶ無事に羽化しました。

### クワガタムシの暮らし

シロカマムシの暮らしは、朽木に大きく依存しています。産卵場所・幼虫の餌・生活空間、そして蛹化の場所として朽木は不可欠な存在です。博物館がある大町公園には落葉広葉樹が多く生え、不必要な（過度な）管理もされていないため、適当に荒れていてクワガタムシ、特にノコギリクワガタが多く生息しています。

せっかくのクワガタの展示ですが、他の飼育展示、たとえばシロヘビやウシガエル、ナナフシ、オニヤンマのやご、バッタ類にくらべて特別人気があるというわけではありませんでした。子どもたちの関心は、いまや外国産のクワガタに向いているようです。



すこしお洒落なガラス水槽で飼育しました。ノコギリクワガタのオスを数匹入れ、日中でもよく動いてくれました。ガラス面が排泄物で白く汚れるので、毎朝のガラス磨きが大変でした。

# わたしの 観察ノート

## ◆大町より

・大町公園入口のシラカシの幹に、シラホシコヤガの幼虫と蛹を見つけました(5/1)。又近くの石垣の上にアカシマサシガメがいました。

## ◆大柏川より

・宿之下橋周辺にまだコガモがいました(5/1)。午前中に確認した時には、オス1羽メス2羽いましたが、午後にはいませんでした。

以上 K.H.さん

## ◆市川霊園より

・ユズの木でナガサキアゲハの弱齢幼虫を見つけました(5/29)。採取して帰り、飼育しています。6月6日に終齢幼虫に脱皮しました。

藤田秋子さん(大和田在住)

## ◆柏井町より

・数年前から飼育しているスズムシが卵からかえりました(6/14)。昨年より10日遅れです。

佐久間直次さん(柏井町在住)

## ◆里見公園より

・アオバズクの声が今年初めて聞こえました(5/3)。20分程鳴きながら飛び廻っていました。ちなみに2008年の記録を見たら5月4日初鳴きとなっています。同じような日に渡ってくるのが不思議です。2007年は5月9日でした。

## ◆国府台周辺より

・ホトトギスの声を聞きました(6/1)。朝7時頃、家の東側の木立の上から突然甲高い声でケタタマシク鳴きながら里見公園の方へ飛び去りました。

以上 秋元久枝さん(国府台在住)

・暗い林の中、サイハイランがひっそりと一本咲いていました(5/22)。別の場所では二本咲いていました(5/25)。残念ながら一本は折れていました。

## ◆北国分周辺より

・オカトラノオが昨年よりも1週間近く遅く咲きました(6/20)。花穂はやや小ぶりですが、本数は増えました。

## ◆市内某所より

・10株ほどのキンランが小群落で2ヶ所もありました(5/9)。他に数株ずつあちこちに咲きました。こんなにたくさん見たのははじめてです。キンランは他の場所で2株しか見られませんでした(5/8)。

以上 谷口浩之さん(北国分在住)

## ◆じゅん菜池緑地より

・斜面林を移動しながらさえずっているサンショウクイのせわしない声が聞こえていました(5/3)。堀之内貝塚公園で姿を見て以来、3年ぶり2度目の記録です。

根本貴久さん(菅野在住)

## ◆東浜より

・アメリカネナシカズラが何ヶ所かでハマヒルガオに絡んで咲いていました(6/26)。ハマヒルガオ、ハマダイコン、ヤマアワ、ツルナも咲き競っていました。海ではホンビノスという大きなアサリのような貝を沢山採っていました。

道下誠さん(中国分在住)

日差しは強くても、空気の冷たい日がありました。6月14日頃の梅雨入り後は少雨で、湿度が高い日が続きました。



# 行事案内



## おやこ自然観察会 お申し込みが必要な行事です。

詳細は、返信のはがきでお知らせいたします。

- ・場所 自然博物館 周辺
- ・時間 午前10時頃から1時間半～2時間
- ・定員 先着20名 親子対象の行事です。
- ・日にち 「9月の昆虫」9月19日(日) 8月28日(土)より受付開始

### \*お申し込み方法\*

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、「9月の昆虫」、返信面に返信先を明記の上、市立市川自然博物館まで、お申込みください。  
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地

## 長田谷津 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 8月7日㊥、9月4日㊥、10月2日㊥、午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

## 季節を感じる 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

\*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
フジバカマ探訪	9月12日(日) 午前10時～11時30分	坂川旧河口

## 長田谷津ボランティア

### 湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日時 8月29日㊥、9月26日㊥ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

### 野草名札付けのお手伝いをして下さいますか。(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 8月8日㊥、9月5日㊥、10月3日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

企画展  
「長田谷津いきもの暦」  
博物館特別展示室で開催中  
平成23年1月30日まで

市立市川自然博物館だより  
第22巻 第3号 (通巻第129号)  
平成22年8月 発行  
編集・発行/市立市川自然博物館  
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地  
☎047(339)0477  
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>